

令和3年度「非違行為防止研修」実施計画書及び実施報告書

※白黒反転しているセルは報告段階で記入。回数、月名等は数値のみ半角で記入。

郡市名	北安	市町村名	小谷村	学校名	小谷小学校	校長名	中村 恭之
学校種(小:1,中:2,特支:3,義務:4)	1	記入者職名	教頭	記入者氏名	吉沢 真里		
電話番号	0261-82-3522		メールアドレス	otaries@otari.ed.jp			
非違行為防止委員人数	5	非違行為防止委員会主任職名	教頭	非違行為防止委員会第三者委員役職名	PTA会長		
非違行為防止委員会実施予定回数	3	非違行為防止委員会の実施回数	3	非違行為防止委員会実施月	4,7,11		
非違行為防止マニュアル・校内ルール点検改善予定定期限月	9	非違行為防止マニュアル・校内ルール点検改善月	9	1人の教職員当たりの校長面談予定回数	3		
1人の教職員あたりの校長面談実施回数	3	1回の校長面談の平均実施時間(分)	20	校長面談実施月	5,10,2		
相談窓口の利用促進にかかわる工夫	学校要覧、学校便り等での紹介、校内掲示板への表示					相談窓口利用実績	5
非違行為防止研修内容・校内ルールの公表方法	ホームページ掲載	公表予定回数	4	公表回数	4	公表実施月	4,7,12,2

○本年度の非違行為防止に関わる目標

目標	自分の家族や児童を悲しませないために、教職員が教育公務員としての自覚と責任をもって、社会規範に反する行為を絶対に行わないようにする。 一人に負担を負わせることなく、教職員が互いに支え合い、信頼し合い、助け合える温かい職場を築く。
----	---

○非違行為防止研修の実実施計画と実施報告

実施月	非違行為防止研修実施計画	実施報告(教職員の参加の様子や反応、感想など)	研修の回数(下記に回数を入れてください)							
			講演・講習	マニュアル等作成	チェックリスト作成・実施	校内体制整備	資料等読み合わせ	協議・体験・演習	その他	
4月	職員会議で学校長から非違行為による教職員の信用失墜行為と、その影響の大きさについてご指導を受け、教職員全員が家族に向けた手紙形式で非違行為防止の誓いを記述する。	・家族にあてて、非違行為防止の誓いを心を込めて記入した。年度当初に学校長から指導により、信用失墜行為の影響の大きさや再確認できた。	1			1		1		
5月	・交通事故に遭ってしまった時の対応を確認すると共に、飲酒運転、スピード違反の事例から原因を考え、小集団で非違行為を回避する行動を話し合う。	・事例を基に対話を通して交通事故等を起こした際の行動や対応の仕方について確認し事故対応への見通しや防止への自覚を持つことができた。			1				1	
6月	・職員会議での学校長の指導から、非違行為防止6策について再確認し、児童や保護者に信頼される教職員としてのあり方について共通理解を図る。	・非違行為防止6策について、学校長の話から理解を深め、信頼される教職員集団となるために非違行為を許さない同僚性を育む大切さを再確認した。	1					1		
7月	・「非違行為の根絶に向けて」の事例(わいせつな行為)をもとに、スクールセクハラチェックシートで自分の言動を振り返って再確認する。	・「わいせつな行為に係る検証報告書」や事例から、問題行動が起きるプロセス(4つの壁)を考え合い、チェックシートを用いて各自の言動を再確認した。			1			1		
8月	・外部講師を招いたICT研修を通して、タブレットの活用の仕方と共に、個人情報保護等や非違行為防止のための対応策を学ぶ。誓いを再確認する。	・各教科のオンライン授業を想定したICT研修を通して、講師から個人情報保護や著作権違反等教材活用時の注意点を学んだ。また、誓いを再確認した。	1						1	
9月	・児童理解の推進と共にアンガーマネジメントを学び、体罰(暴言)根絶のためのセルフチェックシートで、自分の言動を振り返る。PTA本部会を交えて非違行為防止マニュアルを見直す。	・運動会を前に過剰な指導とならないよう資料でアンガーマネジメントを学び、チェックシートで自分の言動を再確認した。PTA本部会の際に、非違行為防止マニュアルについて見直しを行った。		1	1			1		
10月	職員会議で、パワーハラスメントの判断基準3要素や6つの行為類型について全職員で見直しを行った後、チェックシートで各自が自分の言動を振り返る。	事例について対話を通して考え合い、資料を用いてパワーハラスメントの判断基準3要素や6つの行為類型について全職員で見直しを行った。						1	1	
11月	・人権教育旬間に合わせた講師の講話を通して、人権感覚を磨き、命の重みや心ない一言が死を誘発することがあることを児童や保護者と共に考え合う。	・学校長の人権や命についての講話や縦割り班の対話による全校道徳授業を通して、児童と教職員がお互いのよりよい関わり方について真剣に考え合った。	1							1
12月	・小グループに分かれてグループごと討議の柱を決めて、それらを防止するための具体策を話し合う。誓いを再確認する。	・連学年ごとに、日頃から意識している非違行為防止の取り組みについて、対話を通して学び合った。主体的に対話の様子から非違行為を許さない同僚性を感じた。						1	1	
1月	・学校評価の結果を共有し、小集団に分かれて、授業改善や児童への関わり方について意見交換し意思統一を行う。	・12月に行った児童との個々の面談結果や学校評価の記述等を連学年会ごとに共有し、児童理解を深めると共に関わり方について意思統一を行った。				1		1	1	
2月	・情報媒体、個人情報の紛失防止マニュアルを再確認し、チェックシートで振り返って自己管理意識を高める。	・校務の全体反省に関わって、情報媒体、個人情報の紛失防止マニュアルや校内管理体制を見直した。また、チェックシートを用いて各自が管理方法を再確認した。		1	1			1		
3月	・検証報告書をもとに小集団で分かれて非違行為防止マニュアルの見直しについて検討し改善を行う。誓いを再確認する。			1					1	
合計			28回	4	3	4	2	7	8	0

○実施した研修に対する非違行為防止委員(第三者の委員)の感想

非違行為防止に対して、あらゆる角度から事例を参考に研修していただき、親よりも多くの時間を子ども達と共有している先生として、大人としてすばらしい小学校であることを認識できた。働く大人を間近で見ている子ども達にとっても、よい空気感を感じる職場でもあったと感じた。以上の感想から、保護者としても研修したいと思う。ストレスを減らす(共有)ことは大切と感じた。

※適宜行追加してください。記入できない場合などは、資料を添付してください。